

# オリーブの樹

第124号

2014年7月13日

## شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



### 目次

P 2 5月6月の歌 重信房子

P 3 独居より 重信房子

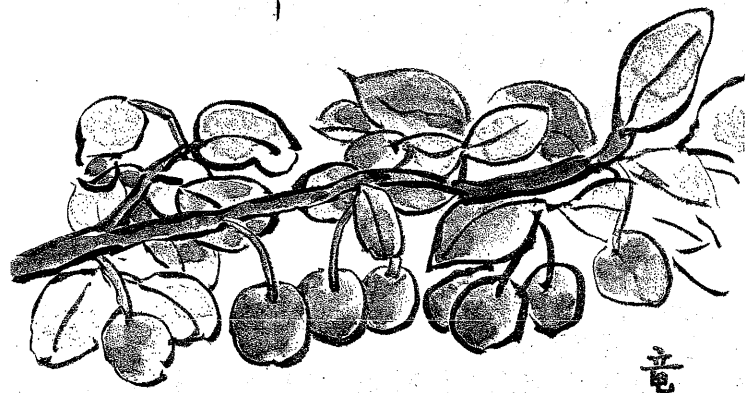
P 16 映画「革命の子どもたち」上映初日舞台挨拶 重信メイ、足立正生

重信房子さんを支える会

五月六月の歌

重信 房子

夏立つ日ジャスミン香るベイルート戦場より戻る旧友の夢見る  
 名を呼ばれ目覚めし真夜の獄窓に皓々と降る十六夜の月  
 アカシアの花絨毯の道を行く旧友も瘡だと知る夏の朝  
 夢の中思いの丈をぶつけると思ひし君は笑みて佇む  
 助け合い未知の隘路を拓き来し君の命日わが胸も雨  
 君悼み眠れぬ真夜の獄窓に立てば目を射る満月に遭う  
 早すぎる君の死今も諾うべなえず小声でインター歌う独房  
 「人間が好きになれた」とパレスチナで働く喜び語りし旧友よ  
 バンザイしてぐっすり眠る子見つめつつ九条は命と友は呟く



晩居よい 5月7日~7月10日

ドクター・スワードの旅立ちに  
お悔やみと感謝と永別のあいさつを送ります

重信 房子

5月7日 五月のさわやかな風。プランターのマリーゴールドとなでしこが一鉢ずつ届きました。連休が明けて久しぶりの外の空気です。

宮崎先生は闘病の苦勞をものともせず「胸も手も錆びついている珍俳句」とリハビリ兼ねて俳句を送って下さいます。味の濃い句「霜月に医師淡々と瘡を告げ」絶対安静が解けて「鉛より重いぞ今日の我が手首」長期入院をへて元気にリハビリ中。今年は庭の梅の花いかがでしたか？もうすぐ梅をとって梅ジュースを作りますか？毎年の先生の腕のみせどころですが。

Kさん庭の美しい花「今年も山しゃくやく本当に素晴らしい花です。去年は切ってドライにしたので今年はゆっくり咲いてもらいました。」と。去年の分はあのみごとな雑誌にも載ったドライフラワーでしたね。でも自然の美しさありがとう。

5月8日 少し風はあるけれどグラウンドへ30分。スズランはもう終わりそうでしたが、その脇に濃紫のあやめがいくつも咲き始めました。少し坂道を下向いて歩いていると、白い花が散り敷かれていて思わず見上げると、塀の外のアカシアの白い花が真盛りです。桜も新緑の葉を広げ、桜樹も緑。もう立夏を過ぎると新緑の夏。思い切り体をのばしていい気分。

午後は主治医診断で、鎖骨下のCVポートのフラッシュ。指名医歯科治療を私から報告。主治医は「6月にまた腫瘍マーカーのチェックをしましょう」とのこと。体調は良好で、5月14日「大綱引大会」があるので、競技参加も可能と言われました。でも見学にしようと思います。すごく太い綱をひっぱり合うのです。

雑誌を読んでいたら、サッカーのザッケローニ監督が、日本とイタリアの文化すべての面、生活態度やふるまいが非常に違っている、「最初に思ったのはイタリアと日本、さすがに一万キロ離れているだけのことはあるな」と驚いたとのこと。イタリア人はあまり調子よくないと周りのせいにして、自分自身は責めない。日本人は自分に厳しい。ミスしたり負けると自問自答しすぎ、実際より失敗にこだわるという話をしていました。

また、数日前の新聞に相模の大砂嵐の親方が、日本

人はすぐ涙まるのに、彼は弁明しようとするので、言い訳するな！と叱ってきたが、文化の違いだとわかってきた、というようなことを話していました。どちらも日本人の姿を逆に浮かび上がらせています。よく言えば自分に厳しい。そういう人は日本人にも外国人にも居ますが、または世間や同調圧力に迎合して自分を責める悪い傾向もあります。外国の人は起きた事実が「なぜそうなったか」をまず説明しようとするけれど、日本では「言い訳」と受けとめられてしまい「早くまずあやまって済ませよう」とするのが多いです。その分「思考停止」であやまってやりすごすのでしょうか。説明、弁明しながら、やりあって一致する方がスッキリする気がしますけど。

ザッケローニ監督の苦勞を垣間見つつ「文化」のちがいを考えています。日本人は事実を直視し発言することに慣れていず躊躇してしまいます。それはだれも責任をとらない「フクシマ」や「戦争責任」に言及している「永久敗戦論」の言わんとしていた空気でもあります。もうそれらは「日本人気質」になっていますね。変革とは体制システム・制度ばかりかそうした社会の人と人とのあり方感じ方をもその中で変えていく姿でしょう。

5月13日 朝「今日は指名医の先生の診察は9時からです。」と言われ朝食後待機。新しい義歯はピタリとしてきつすぎると初めは感じましたが快調です。古い方のは治療用なので少しプカプカにしてどこでも噛めるように作ってあったようです。一度でピタリとうまくいくコツは「型取り」がよくできたかどうかにあるとのこと。今回はピタリと仕上がりがほとんど調整もなくこれで終了とのこと。そしてはみがきのジェルとハブラシの歯周病対応のものをもってきて下さって磨き方も示してくれました。保険課と話して許可がおりれば歯周病対策に助かります。ていねいで有能な先生でとても助かりました。お礼を伝えて別れました。

Sさんお便りありがとうございます。「原発は減ひゆく恐竜である」を読まれて「救援連絡センターを作った水戸さんが反原発の旗手でもあったのに、何故その主張が全共闘世代や当時の反体制派といわれた人達

に浸透しなかったのか、無自覚であった自分も含め当時の“世相”を思い返しながら不思議な思いです」とあります。私自身も同じ思いにとらわれました。「自分の見たいものしか見えなかった」または「自分の中で優先順位を無自覚に決めてしまっていた」のかと自分をとらえ返しつづつ思います。「中央権力闘争」そこでの「勝利」をいかに実現するか？に、まっしぐらで一生懸命の一分知半解の自分がいます。

T子さんありがとうございます！「かりはゆく」で日本人村の開村の様子楽しく読みました。安部農場改め、よど号農場もいいですね。気候は少し寒いかもかもしれませんがお茶の木を植えたらどうでしょう？！おいしいお茶が飲めますよ！子供の頃新芽を摘んでお茶をつくっておいしく飲んだのを日本の獄中で思い出しています。地中海の地に居る時お茶の木を植えたらよかった！と今頃思い返していたので、ついでにお勧めします。でも寒くてムリかしら……。

「選択」5月号や雑誌などありがとうございます。レバノンの大統領選はどうなっていますか？エジプト、シリアは予想できますがレバノンは予想がつかず気になっています。

5月14日 昨日は国会を包囲する2500人の「ヒューマンチェイン」で「集団的自衛権」の行使に反対する市民が集まったとのこと。安倍は自分の同盟者を集めて「法制懇」などと法的根拠なく権威つけて「報告書」を出させ、9条を骨抜きにし、集団自衛権を押し通そうという魂胆。朝日新聞一面で「憲法より安保優先」「立憲主義化からの逸脱」と「法制懇」の報告書内容を批判しています。知恵ある力ある野党がない中、どんどんやりたい放題の安倍政権に「国会包囲ヒューマンチェイン」の闘う人たちに心から感謝と連帯を捧げたい。



午後は「大綱引大会」の試合が行われました。トーナメント方式で懲役の男子らが競技。女区は職員白衣のスタッフと対戦。一回だけの参加。男性も入った白衣のスタッフ組に女区は勝利。去年も勝ちました。女囚たちは力持ち！です。私は見学を楽しみました。

5月15日 小雨が降って運動は無しになってしまいました。例年6月に支給されていた夏パジャマと半袖作業着の支給が前倒しで今日になりました。冬物も保持してどちらを着用しても良いとのことと助かります。汗だくの冬物パジャマの夏は解消されます。

今日は「オリーブの樹」123号が届きました。ありがとうございます！5月はパレスチナを考えるリッジ闘争の時です。(もちろん沖縄の「復帰」の5月でもあります。基地を「固定化」し「密約」の刻まれた月です。)

「オリーブの樹」の表紙の歌も絵も気に入りうれしく今眺めています。ベカー草原にも、地中海の海の岩場にも、パレスチナにも、この真紅の花が咲きます。けしの花ともアネモネの花とも友人たちは言います。花はポピーに似ていてもっと強そう。真紅だけです。はっきり覚えていなくて残念なのですが、「パレスチナアドニス」とか「夏福寿草」とも書いてある本を読んだことがあります。アネモネはキンポウゲ科だし、けしはけし科なのですが、とにかく今頃レバノン、パレスチナに咲く花のまま！知らない竜さんが五月にこのけしの花を描いてくれてイメージピッタリです。硝煙の匂いの草原に咲いているの、これです！カットもいっぱいありがとうございます！文をひきたててくれて。リッジ闘争の記念にとエピソードを記しました。

パレスチナの解放勢力が統一し、再びアラブ民衆の羅針盤に！と願いつつ。今パレスチナはどんな風にナクバを迎えているのでしょうか。ネタニヤフは訪日してパレスチナ和平など考えてもいなかったですけど。萩尾さんの書いておられる通り！ニューヨークタイムスの指摘は海外からの日本像です。「最高裁は安倍の解釈を否定して、どんな指導者でも個人の意思で憲法を書き替えることは出来ないことを明らかにすべきである」と論じている「我が最高裁」の恥辱は「伊達判決」否定以来同じ穴のムジナ。「ヒットラーをも越えている」は安倍のやり口に対する実感です。何とか回天のチャンスをも！と思いつつ萩尾論文読んでいます。自分の日誌も読み直すと反省も多くあります。これから読み返します。短歌も「書評」も友人たちの投稿をもっと書いてもらえます様に！鯉のぼりの子どもの絵もかわいい！

5月16日 ナクバの5月について考えている週末、「アイヤーム・アハリー」のイースター号をちょうど読みました。ガザにある「アハリー・アラブ病院を支援する会」のニューズレターです。ちょうど、「パレスチナ訪問記」が載っています。「ベツレヘム。キリスト者の私には、クリスマスの香りのする地名である。しかし、最初に目に飛び込んできたのは、高い分離壁であり、検問所だった。鉄柵の間を歩いていると、刑務所に居る気分になり、黙ってしまう。」という訪問者の第一印象にはじまり、ヘブロン・ガザなど各地を訪れた方々の印象・感想が記されている。ことに、ガザの訪問記では、現在の封鎖閉鎖下にある地理的環境がどんなにひどいものかが、詳しく地図入りで示されていてわかりやすいものです。「外国どころか家族親戚の居る西岸すら訪問できず、ガザと言う大きな監獄にとらわれているのです。」不条理・理不尽があんなナクバから66年目の5月。パレスチナ解放と連帯を！と心から祈ります。

四方田先生お便り感謝。きつと一面的な私の書評というより感想でムツとされておられるのでは……と思っていたところ、さわやかなお便り。「僕の『わが煉獄』を丁寧に読んでくださってありがとうございます。煉獄とは地獄から脱出できたという意味で、時間はかかるけれども、必ず達成される希望のことだと了解しています。四月はずっと台北の立法院を占拠している学生たちと会ってきました。彼らは585時間、直接民主主義を実践しました。(中略)これから6月はタイに行きます」とのこと。

煉獄の詩を読み返しつつ、また揺れるような思いに浸っています。(観音一箇所14頁下から13行目若者→著者)フィールドワークの場が新しいものを生み出す各地の若者たちであることがなんと貴重なことでしょう。日本の学生たちに語ることで、新しい可能性がひらかれますように。体調にも気を配っておられるでしょうか？再発はないのですよね？！

CHさんやりましたね！！5月11日のコンサートは成功でしたね！「11日のコンサート僕がメインゲスト。僕一人のために主催者、スタッフが取り組み、僕一人のために大勢のお客さんが入場料を払って来てくださる。形としてはプロの舞台を務める重圧をひしひしと感じました」とのこと。でも、Sちゃん、Nちゃんが支えてくれて、衣装や小道具の早替りなども万全と。子どもたちはすごい！それに入場料5万円以上、全額震災復興義捐金に寄付する主催者も出演者もいいですね。こんな集い、出演、子どもたちとの共働、目に浮かぶようです。成功おめでとう！夜更け目覚める

と満月のような月が皓々と輝いていて、見とれてしまいました。

5月19日 今日は、冬物、厚手の下着は使用終了で傾置する日。2枚使用中の毛布も1枚回収。夏に向けて衣替えです。

I子さんパレスチナ画家の絵のお便りありがとうございます。この花です！「オリーブの樹」の表紙になった真紅の花。ジャスミンの香りですって？そうペイルートも今頃ジャスミンが街のどこかに咲いていて、風が街中をジャスミンの香りに包む頃です。京都でネタニヤフ来日に抗議する集会があったのは嬉しい。ナクバの5月ですもの。連帯！

私の大切な旧友と会われたとのこと。私ももっともっと旧友と一緒に居た時を大切に過ごすべきだった……とよく思い返しています。初期の頃の彼女の存在にどれほど励まされたか知れません。先日仲良く立ち話をしている夢を見ました。ジャスミンの垣のところで！病気で入院されていたとのこと。元気で再開できることを願っていると宜しく伝えてください。

宮崎先生、もうすぐ結婚記念日(リッジ闘争の記念日で思い出すが)と思っていたら、再手術とは……。どうか成功しますように。「樹の根元ここにも咲けり白き花」達観して句を読んでおられます。私も先生の「セ・ラ・ピ」(これが人生の意)から一首。「癌手術セ・ラ・ピと悟り伝え来し恩師思えばアカシア降る獄」。

ちょうど「救援」も届き、袴田さんの支援の方々の今回の再審開始までの経過を読みつつ、本当にすごい……信念と様々な創造的な論証が裁判所を覆させたことがよくわかります。再審での勝利は当然でしょう。

5月20日 暖かいので、入浴後、半袖の夏物パジャマに着替え。髪を梳き一段落して昼食前、姉の面会。面会所の渡り廊下の紫陽花はまだ蕾もつけていませんでした。これからです。指名医歯科治療を終えたので、支払いの手配などよろしくお願ひしました。家族の話をしているうちに時間でした。

「はなかみ通信」をちょうど受け取りました。「いろはかるた」は、なかみ詠のものから、江戸、京、上方、尾張のものや、今と昔の「いろはかるた」や、鶴見俊輔先生の「いろはかるた」島崎藤村まで、いろいろ盛沢山。まずはSちゃんの分の文、それからYさんのを読んで、いろはかるたには「安静時間」に、ベッドでゆっくり言葉遊びを楽しもうと思います。

五月のそちらは新緑の美しい頃、反戦・脱原発「秘

密法」「憲法」「集団的自衛権」きつと生活の中で、人々と行動しておられることでしょうか。体調はもういいのでしょうか。元気です！

5月22日 五月晴れで、午前中グラウンドに向かいました。新緑の季節で風がクローバーの香り！深呼吸をして、風の香りを楽しみながら、ウォーキングに柔軟体操。

大飯原発の再稼働を認めない差し止め命令の判決が今日の大事な記事。「生存の権利と電気代同列にできない。」「国富」についての裁判長の常識に日本中のどれ程多くの人があがなうことでしょうか。判決を活かした「脱原発」の闘いが広がるでしょう。裁判所が「検察の追認機関」であることをやめ、裁判官が憲法と良識に基づけば、こういう判決は増え、日本をもう少し良くすることができる気がします。司法改革でも裁判官がもっと権限を持って検察にものを言えるシステムにすることは可能なはず。ちょうど、この大飯の「脱原発」にもかかわってこられた友人たちからお便り。今頃は判決に大喜びで、さらに活動を続けておられることでしょうか。

米澤さんお便り感謝！「講演、集会、デモと4月28日から5月6日の「ロックの日」まで、9日間で6回の集会デモに参加し、さすがに膝に水がたまり、灸を行い、小康状態」とのこと。経ヶ岬、福井、伊方と走り回って、今は、仲間と共に福井の大飯原発の訴訟勝利でまた、忙しくなっておられるのでは？「体は、ヒロシマの語り部としても、どうぞ気をつけてください」と、常々書いていましたが、市民水泳大会年齢別で、平泳ぎ25メートルと50メートルで、大会新記録で両方優勝し、大会最優秀選手に選ばれたなんて！！すごい体力！「孫に自慢します」なんてうらやましい。今年は8・6ヒロシマにむけて、すでに取材殺到ですね。イギリスのBBCやアメリカからの取材。あの去年出版した本『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』が、広く人々の手を経て、海外の人々にも伝わっていること、嬉しく誇りに思います。

Tさんは体調にかまわず、自分の残りの命を掛けて「反戦」「反核」「脱原発」と走り回っているのでは！と、気がかりです。癌の再発予防の腫瘍マーカーチェックなどしているのでしょうか。

米澤さん、Tさんらのがんばりが次の世代とつながりあっているのが嬉しい私です。連帯！

5月23日 人間ドック学会の発表した「新基準値」のことを書いた雑誌を読んでいます。血圧は147と

94まで正常範囲、コレステロール値や中性脂肪、肝機能、腎機能など、正常値が大幅に緩和されています。基本は体調良ければ多少の数値は気にせずということでしょうか。でも、癌早期発見のための血液検査は60歳位からやった方がいいと、私は思います。

5・30を区切りに歴史資料をコンパクト文章化中です。何十年も前の「三多摩パレスチナと連帯する会」の「パレスチナ連帯通信」は、とても役立ちました。50号までの合冊です。私が調べたいのは、多分その後の51号とか人民新聞などに載っている「サブラ・シャティーラ国際民衆法廷」の資料です。何かこの民衆法廷の資料を持っている方が居たら貸してください。(サブラ・シャティーラ難民キャンプへの82年9月16日～9月18日の虐殺。イスラエルのペイルート占領下で起こったもので、それを真相究明するために、世界各地で国際民衆法廷が開かれた。日本は83年3月18日～3月21日、多くのパレスチナ証人参加して行われた。)

今週の「朝日歌壇」の永田和宏選に「「しょうがない」は日本人の悪いくせ九条原発秘密保護法」とあり、私も一首。「「しょうがない」日本人の悪いくせ打破して刻みし大飯判決」と詠みました。

5月27日 昨夜の雨が上がり涼しい風の朝です。30分のベランダウォーキングのあと気持ちよい入浴。半袖パジャマに着替えて一息。

午後はコーラス。コーラスの先生は82歳ソプラノの歌手ですが、先生の教え子の91歳の方と一緒に見えました。二人共独り暮らしでいきいきしておられます。年をとってからはじめて歌を習った91歳の教え子は「この道はいつか来た道」など朗々と歌ってくれました。「自分の力で生きていく時、人が助けてくれる」という経験談と「いつからでも努力すれば実る」と教え子の歌から私たちに学んでもらいたいと、一緒に連れてこられたと先生。91歳の教え子は「こい先生だったけど……」とニコニコしながら女学生のように歌ってくれて、みな拍手。先生もドイツ語の「私はあなたを愛す」を若いソプラノ歌手のように歌ってくださって「やれば出来る！」と励ましつつ「すみれの花咲く頃」を歌唱指導してくれます。一小節ずつ独りで順番に歌い、あっという間の一時間が終わりました。この先生褒め上手でみんな歌える気分させてくれます。

5月28日 八王子も夏のように少しずつ湿度も温度もあがってきました。ペイルートの5月は、乾期の温

暖な良い時です。草原には色とりどりの花が咲き、ジャスミンの香りのリッド闘争の季節。シリアとレバノンの国境地帯のシュトーラ、マスナ、パールベックはレバノン東部の緑一杯花咲くところです。今その地域は難民としてシリアの戦火を逃れた人々が、厳しい暮らしをしているところ。せめて厳寒からこの暖かい時期になったことを喜びますが、夏は灼熱。と言ってももちろん砂漠地帯より過ごしやすいし、日本の湿度の多い熱夏より過ごしやすいです。

5・30の時を思う分、あちらの情勢が気になります。エジプトも「ムバラク体制」より強権の軍支配がシーシ大統領確定から深まりそう。シリアの大統領選に米欧はアサド批判の方策を再検討中。「ウクライナ問題」が目下の焦点で、パレスチナをはじめとする中東の政治動向は獄中では新聞から伝わってきません。新聞やメディアが扱わないとしても、変わりなく戦乱と混乱の中で住民たちの厳しい現実が続いています。資料を学習しつつ、唯憤ったり同情したりしかできない……。

Mさん足の腫れは痛みが少しおちついたとのこと。その間何日か休みつつ「カラマゾフの兄弟」読んでおられたとのこと。「神がもはや死んだ時代に神を求めて彷徨っているのがぼくたちなのかなあとそんな思いが湧いてきます。現代人は神なしで生きているけど、神なしで生きることはできてもまともに死に向かったら神なしで死ぬことは本当はできないのではないかなというのが、今の問題意識です。」と記されています。同じようなことを神なしで死ぬ私は何十年前にイスラームの知識人から言われたことがあります。それで今日は「イスラームの日常世界」を読んでいるところです。

5月29日 起床前から明るい空が広がっています。カーテンを開けて「おはよう！」と丸岡さんに呼びかけていた頃を思い出します。この時刻のこの日、丸岡さんが闘いつつ果てたのだと思ひ黙祷。今日は彼の命日。午前中、グラウンドに出ると庭石菖があちこちに咲き、さつきも咲き揃って青空の5月。あの72年5月29日は、丸さん、ペイルートで、パーシムたちの闘いのニュースを今か今かと待っていましたね！などと、次々と情景があふれて、黙々とウォーキング。風もなく、気持ちも穏かに。でも午後は積乱雲の攪乱で暗くなり、にわか雨になりましたが、すぐにまた快晴。丸さんの命日、遺体を引き取りに弁護士や友人がここに来た時にも大雨の寒い日だったのを思い出しています。「助け合い未知の險路を拓き来し君の命日我が



胸も雨” そんな一首が零れます。

5月30日 快晴。関東では真夏日。都心も28度とか。窓辺に立って、空を見上げながら、5・30リッド闘争の日だな……と思いが胸を衝き、26歳の時代に引き戻されるような感じです。

あの時ああいうことも可能だったかもしれない、こういう風にすべきたったかもしれない、と以降のあり方をとらえ返して、この目をすごします。闘ってきてよかった、でもこのようにもって闘えたのではなかったか？ その時なぜそうできなかったのか？ 未熟さ、制約、外因も情勢も今に至る自らのあり方を次々ととらえ返して新しい気持ちを整理します。「自己批判の主導性」の中で団結してきた仲間たちのことを考えつつ、それぞれの生活の中での交流や助け合いはうまくいっているのかなど。

また、PFLPの仲間たち、民衆の統一の要求にどんな風にイニシヤチブを発揮しているのだろうか。近しかった友人たちの病気の話などにも胸痛いけれど、今の私は何もできず申し訳ない思いです。

夕方Yさんからお便りで、同封して「5・30集会案内」を送ってくださったとのこと。受け取れたのはお便りのみでそれは週明け6月に受け取ることになりそうです。もともと「5・30の集い」は、外に開かれた集いでなく、関係、縁故の人たちの宴のような集まりだったようです。リッド闘争は客観的歴史的にとらえても、日本人のボランティア活動の嚆矢であり、パレスチナ連帯を拓いたと言えると思います。5・30はできれば広く人々に向かって、パレスチナ文化や現状を示し、連帯を広げる日、パレスチナ・アラブの理解を広める日であってほしいです。そして、旧日本赤軍の教訓として遺したいくつかのことを共に確かめ、変革へと人々と共に進む日であることを願います。パレスチナに、そして闘う友人たちに連帯の乾杯！

私は今日は「日本赤軍私史」「革命の季節」を読み

返しています。自己批判の主導的な働きかけは、心積りとどまらず、日常の中に生かしたいものです。旧友たちは……と考えつつ。

6月2日 ずっと快晴で、この週末も真夏日で、今日も続いて30℃を越えました。

今日は主治医診察で指名医の歯周病対策のジェルなどは、どうも無理だったらしいこと、後づけでわかりました。主治医も必要なのに、「不可欠の薬」でない無理なのですかねえと首を傾げつつ。CVポートのフラッシュをして、来週腫瘍マーカーのチェックを行うことになりました。

午後、5・30 42周年座談会案内と『ムーブメント連帯』解散宣言が届きました。「ムーブメント連帯」は、やはり持久的には困難があったのですね。旧友たちが持ち場で変革を求め続けることに変わりはないと思います。より発展的な力が育ちますように。「日本赤軍」の総括を活かした一人一人の活動が「自己批判的に」「共に」「現実を変える」ものであることを確信しています。

デジカメ歌人「小満」のお便り感謝！ゼニアオイの花。花言葉は「母の愛」「恩恵」とのこと。タチアオイより野性味があり、東欧の国境地帯に、零れた種で咲くのをよく見かけました。中東でも野草の如くに咲きます。「田植機が迷したる隙間植え埋める老い二人の腕強く細やかなり」ちょうど田植時のデジカメ歌人の一首です。梅雨より猛暑が続いている日本列島です。

6月3日 6月2日、パレスチナでは、ハマスの合意に基づいて、統一政府が発足したという。そしてハムダラ前首相マルキ外相らが再任され、ハマスの近い人物が教育相や運輸通信相に入ったとの記事。合意に基づいて、統一政府が6ヵ月以内をめどに、自治政府大統領と評議会選挙を行うとのこと。イスラエル、ネタニヤフ首相は「自治政府がテロ組織のハマスを組み込んだ」と非難し、国際社会に統一政府を承認しないよう訴えたという。この暫定内閣がとにかく新しい選挙を行う必要があります。7年以上の不正常不正規な自治政府の体制が続いているのですから。

エジプトの政変、「シーシ大統領」の新しい環境は、ハマスには不利に作用する自治区総選挙。ファタハの腐敗への批判から透明性の高い制度の確立や変革も問われています。DFLPやPFLPも、もちろん統一を求め、追求してきたのですが、今後の政策はどうでしょう。知りたいところです。

資料、雑誌などありがとう。朝日「週間日本の歴史」

47 (1970年~1989年) わざわざ送って下さって、感謝。日本赤軍のことをパトリシア・スタインホフさんが書いておられるものですね。彼女と最後に会ったのは、(公判ではよく見かけましたが)ちょうど、オバマが大統領に選ばれた時でした。ハワイ大の教授はハワイ出身「進歩派」のオバマに期待し大喜びでした。プッシュよりましですけど……。やはりアメリカの大統領は「権限大」といっても、アメリカの大資本の利益とシステムの遂行者以上でも以下でもなかったけれど。パトリシアさんは「過激なテロリスト集団、そんなイメージの日本赤軍。正確な姿が浮かび上がってきたのは2000年代になってからのことだ」として、「日本赤軍私史」や、公判傍聴をふまえた事実に基づいて記しています。

『情況』も受け取りました。大谷弁護士の新しい本「共生社会のリーガルベース——差別と闘う現場から」(現代書館)の書評を特集しています。ゆっくり読みます。友人からカンパありがとうございます。

6月4日 もうすっかり夏です。梅雨がもう終わった夏の気分になっている八王子です。蚊も出てきています。網や殺虫剤スプレーで房内に入ってくるのは稀ですが、この「稀」な一匹が手強い。いつの間にか夜中にあちこち刺されて滅灯下の薄暗い中、目を凝らして捕まえないと、たくさん刺されます。まだスプレー使用期間でないので、6月に入って、毎日1匹を捕まえています。

パレスチナの暫定統一政府に対して、ネタニヤフ首相は「アッバス議長はテロにイエスと言い、和平にノーと言った」として、交渉しないし、自治政府に制裁を科すと宣言したとのこと。身勝手なすり替えです。イスラエルによるガザへの軍事攻撃の危険は高まっているでしょう。統一政府のもとで、選挙がどう公正に行われ、新しい自治政府大統領と新しい評議会議員がどう変革を実現できるのでしょうか。

午後、ほんとうに久しぶりのメイの面会。滞在は短く、仕事の合間に来てくれました。メイは、私の腫瘍マーカー値や歯の治療のことを知りたいし、私はメイの仕事を知りたいし、あつという間の30分。でも、楽しく仕事はしているようで、とっても元気そうで、私も嬉しいです。

6月5日 真夏から梅雨に戻ったよう。今日から東京は梅雨入りです。小雨の八王子。今日のグラウンド運動は中止です。その時間申し込んでいた整髪があつてさっぱり。資料を学習しつつ過ごしています。

今週の「朝日歌壇」の永田和宏選に“アフリカやアラブの人に幾たびか握手されたり憲法ゆえに”の一首が選ばれています。あ、私も同じ経験をしてきたな……と思わず笑みを漏らしつつ読みました。戦乱の中で闘いを切り拓こうと解放を目指す人びと程九条を理解しています。「九条は21世紀か22世紀の各地の常識になっているかもしれないな……」20世紀共に闘った戦場で語っていたアフリカの友人を、パレスチナの友人と共に思い出しています。

6月6日 昨日から絶え間なく降り続いて本格的な梅雨です。今日の運動も房内です。梅雨になるとベランダもグラウンドも行けないのが残念。

宮崎先生再び手術とのこと。でも達観して句を読んでもおられます。「業ならも四度腹斬り生きており」「組板の鯉の心境吾独り」。軒高であられるお便りが嬉しいです。私も何度も手術で命拾いしているので「手術出来る」のは「健康の印」と成功を祈ります。

明日は「土曜会」みんなに挨拶を送ります。

6月9日 週明け。降りそうでしたが、午前中ベランダに出て運動することが出来ました。今日は月曜日なので資料がたくさん届きました。感謝！

映画「革命の子供たち」が7月5日から「テアトル新宿」で上映されるのですね！ピラが資料に入っていて知りました。7月12日からテアトル梅田でも全国順次公開とのこと。日本での上映はむしろかきいってしまいましたが、東拘に居たころオサリバン監督がドキュメンタリー映画をつくりはじめていると面会で話していたものです。機会を活かして見に行ける方は見せて下さい！

また「5・30の集い」の資料も届きました。参加された方々の総括の文など読んでるところです。日本赤軍の教訓を活かし、実態にあわせて「連帯」解散から実践的に転換していくことを願っています。一つは「5・30の集い」を外に開かれたものに節目で準備・学習をしつつ発展をさせてほしい。もう一つは「中東レポート」の再刊のような定期刊行。その中でとくに主体の側の考えや動向を教えてほしいです。いろいろ総括討議や解説は必要かもしれませんが、一方で現実を変えていくことを願いつつ。

Mさん「戦争をさせない奈良1000人委員会」の署名活動は進展していますか。「さわさわ」を始めた頃は地元・地域とのむすびつきはなかったけれど、向きを変えて地元の中に活動の糸口を見つけ、今では蓄積が人と人との関係を豊かにしています。福井で裁判に

勝利した中野哲円さんの提案に沿って「再稼働反対署名活動」「千里の道も一歩から365歩マーチ大作戦」計画の成功を！「足を知れ今もそう啼くホトトギス」Mさんの句です。

6月10日 今朝採血。この採血で腫瘍マーカーが正常になったら、また「にもつ整理」です。資料メモ化を急がないと……。こちらは温度が高くなったり低くなったり不安定な天候です。丁度夏物、冬物パジャマがまだあるので、朝ベランダ運動には夏物、夕方肌寒い時は冬物と風邪を引かないよう着替え注意しています。

英国の知人から励ましのお便りありがとう。この人は60年代私より早くパレスチナのガザの職業訓練所で先生をしていた人です。そこでパレスチナ問題を目の当たりにして、自分の国の1917年「バルフォア宣言」、1948年5月の「ナクバ」の責任と犯罪を認識したとのこと。以来ずっとパレスチナ連帯支援を続けている人。各地で同世代の人々が活動し続けているのは嬉しいことです。

今日届いた人民新聞を読んでいたら、今週6月14日米澤さんの講演が宝塚市であるとのこと。「8・6ヒロシマ」までは毎日多忙な日々、水泳で体力は十分に証明されていますが、身体を休めつつ活動してください。「大阪の街は人種差別を許さない、仲良くしようぜ2014」RACISMにノー！をと、7・20パレードのおしらせ。キュービットおばさんらのシニアの制服向上委員会も登場するのでしょうか？各地の「脱原発」「沖縄」「集団的自衛権」「改憲阻止」などの様々なとりくみ、案内ピラで臨場感をもっと読めるのはうれしい。今年の「関西10・21」も決まりましたか？

6月11日 午後メイが仕事の合間に面会にきてくれました。PLOの78年3月のパレスチナ連帯国際美術展に関する美術関係の調査で多忙です。当時美術家12人が日本からもペイルートに出展参加(その一人が戸村一作さん)古い話で、中心だった針生一郎氏も逝去されなかなかな大変そうですが、元気そう。この美術展作品は78年7月に東京都美術館(上野)でも行っています。パレスチナ連帯は文化芸術が広がった時代。メイは友人たちとも会えず忙しい様子でした。

戸田さん資料ありがとうございます。「日本社会の実情のひとつとして御覧下さい」と送って下さいました。「ザイトクと体を張って断固闘い門真市を『反ザイトク施策の全国最先進自治体』に作り上げてきた門間市議の戸田からザイトク・ヘイトスピーチ問題について

て資料を提供します」とあり、なかなかすごいパワーの活躍。静岡市児童相談所の副主幹（しかも虐待被害の子供の「一時保護施設」の管理責任者）が実は親ザイトクの有名なブログ「風論」を運営していることをつかみ、静岡市長と児童相談所に5月26日申し入れ書を送るなど、戸田さんの不退転が風をなぎたおしてます！ 連帯！

戸田さんの送ってくださった資料を読んでいて、松下電気ナショナルの城下町といわれた門真市がなぜ「反ザイトク」（反ヘイトスピーチ勢力）施策の「全国最先進自治体」と変わったのか、興味深く読みました。

「革命21」を名乗り、議会「無所属」の戸田議員が市議になって、様々な既成勢力、警察権力に抗して「市民にとって良いと信ずること」を実現すべく、ずっと奮闘していたことがまずありました。市民の側に立って闘い、その結果「公民権停止」や「襲撃」「家宅捜査」を受けてもめげず、闘う戸田さん。門真市民が次の選挙で戸田議員を復活させては「ザイトク」との闘いを応援しています。戸田議員は「ザイトク」が門真で行動を起こす前に議会を説得して、「門真の市民の安全と尊厳を守るの、市の行政責任」をまず認めさせ、門真の人権宣言のように、まず2011年12月議会を作りました。その後も「研修」や提言を、戸田議員は繰り返してきたとのこと。

ところが、「ザイトク」側も戸田さんを集中攻撃し、いつの間にか「5月11日にザイトクの集会を門真の市の施設で行う」と「施設貸し出し許可」を取ったのでした。ここからが戸田議員、「施設使用取り消し」を要求して奮戦。「ザイトクを無視する」として対応しない「革新派の日和見」を批判し、役所の法務担当の「断れば「言論の自由論」に勝てない」とか「もう許可してしまったので」論に抗し、論理を尽くして「ザイトク貸し出し取り消し」を、市に行かせたのです。申請時、ザイトクの側は「在特会の川東です」と名乗り、「朝鮮人は糞を食う民族だ」という講演会をする」と、ひどい表明をして施設使用申請をしていたのに、窓口

は料金を受け取り許可していたのでした。

戸田議員は「どう門真の2011年12月の決定を実行するか、許可取り消しこそが、門真の道だ」と、市行政当局が一丸となるようジンテーゼで説得。「憲法の『言論の自由』は『人権侵害』を許すものではないこと、許せばさらにつけこまれる」ことなどを理を尽くし「ザイトク5・11集会」阻止したのでした。このように行政が教育学習し、人権意識をしっかりと持てば、「人道に対する犯罪」でザイトクに予防対処できるのですね。戸田議員の粘り強さの勝利。「天職」ですね。

6月12日 今日午後、「国府弘子ジャズライブ」がありました。去年に続いて2回目。「夏の思い出」から入り、オリジナル曲の「忘れないよ」などの心に滲みる演奏の後、みんなからビートルズナンバーのリクエストを募って弾いてくれました。「イエスタディ」「イメージ」「ヘイジュード」など。「ヘイジュード」ではみな合唱。その後バイオリニストの早稲田桜子さんが加わって、「リベルタンゴ」「ノスタルジア」「A列車で行こう」など合奏。アンコールの「スターランド」オリジナル曲で「地球、他の星でもいい。生きとし生ける者の平等を願って」と奏でてくれたのが静かな初めから大迫力の合奏へととてもいいものでした。こんなジャズライブが聴けるのは嬉しい。みんなをリラックスさせるプロの国府さんはやっぱりすごいです。

Mさんありがとうございます。パレスチナ人の「キファーハ・アフィーフィーさん講演会」の様子と資料も今読み始めました。「6・5京大岡真理研究室」の主催でキファーハさん招いて講演があったとのこと。ご両親ともPFLPだったんですね。1970年シャティラ難民キャンプに生まれ、18歳でファタハのイスラエル軍事攻撃に加わって捕らえられ、占領下の南部レバノンの収容所の拷問に耐えつつ、6年間を過ごした人。家族に情報も知らされず、「里親運動」で出会った広河さんらの尽力で、居所もわかり釈放を勝ち取ったという経歴の人。当時の知り合いの誰かの娘かもしれない……と思いつつ、70年代、80年代を考えつつ読みました。

さすがに資料は充実していて、パレスチナに関する基礎知識がしっかり学習できるようになっていますね。とても勉強になります。感謝！

「ロックの日！」これでしたか。米澤さんが「ロックの日」のことを記していて「？」でした。昨年12月6日に、国会で可決された「秘密保護法の廃止を求める運動」が契機で「毎月6日は秘密保護法ロック＝施行させない！」アクションの日なのですね。わか

りました！！ 連帯！

資料「パレスチナに愛を」のブログ、ありがとうございます。興味深い英文記事。私もこういう「勢力」が居るはずなのと思っていたのです。この一二年。「アラブナショナリストシリアの内戦に武器を取る」の記事。アラブナショナリスト運動（反帝反植民地闘争を汎アラブ規模で闘ったANM、51年ハバシュPFLP議長やアブ・ハニら、当時の学生たちが創設。のちのパレスチナ支部がPFLPに。イエメン支部が南イエメンの政府になった。この流れは、ナセルらとも共働した）の流れを引き継いで、アラブナショナリストガード（ANG）が2013年発足していたようです。新植民地支配の外国、USら西欧の介入に対して、リビアでも闘って来て、シリアでもシリア軍と共働してありかいた勢力と対決している1500人ほどの勢力とのこと。レバノン南部の若者アラブナショナリストユースキャンプからANGが生まれたとのこと。アラブナショナリストユースキャンプ（ANYC）は、1990年代にかつてのアラブナショナリズムを問い返し、アラブ規模で再建しようとする勢力らしい。反帝・反西欧・反宗派主義を掲げた昔のANMを範とするらしく、戦闘部隊名はアラブの英雄の名を付けている。アブ・ハニ（PFLP）、モハンマド・ブラヒミ（2013年暗殺されたチュニジアの社会主義人民運動のリーダーであり、民族主義思想家政治リーダー）、ジョレス・ジャマル（56年スエズ危機の際、フランスの船を沈没させた）などなど。

「我々アラブ民族主義者はアサドの復権のために闘っているのではない。リビアでNATOに対しても、イラクで米軍侵略に対しても闘った。ガザでイスラエルの侵略にはPFLPと共に闘った。我々は神の党、シリア社会民族主義党（SSNP）とも共同している。西欧はイスラム過激派を使って、アラブ世界に乗り込み、資源を収奪し、再び植民地化しようとしている。シリアで対立の始まった2011年、アラブ民族主義者は分裂した。当初、反体制派に与したが、それは誤りだった。イスラム過激派は恐怖で人民を支配している。アラブ人民のために、西欧や宗教支配に抗する勢力と共同して闘う。アサドとも。アサドのためでなく、アラブ民族のため」という考え方。

アラブナショナリズムが進歩派の一般的な考えなので、こういう勢力は一定力を増すだろうと思いつつ読みました。

また、ブログ管理人の山本周五郎の小説「武家草鞋」の紹介と反省の文もなかなかいいです。昔「武家草鞋だ」と自分たちをとらえ返した77年を思い出してい

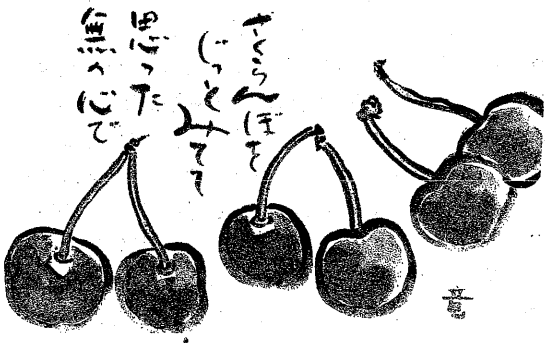
ます。真剣に世の汚らしい過ちに憤慨し怒る武士の話。「でも、もし世間がそうなら、その責任の一端はあなたにもありますよ」と、泊めてくれた老人に言われます。ブログ管理人は「他者に対する批判のみ厳しく、自己を見つめることを忘れていました。その姿は若い頃の私自身の姿です。他人に厳しく自分に甘い！これが戦後自称『左翼』の最大の欠陥だ！と、今を振り返っている次第です」とあります。自己批判から再生を作り出した私たちの共通の歴史を思い返しています。

6月13日 快晴の空を見上げていたらYさんからの郵便りで6月11日朝ドクター（信原医師）が亡くなられたと知りました。

「今夜（11日）通夜で、明日葬儀。5・30の日、電話で少し話せたのがせめてもの気休めです。見舞いに行くところでした。Tさんが見舞いに行って、彼女は話すのも難しいくらいでしたが、『革命の季節』が読みたいとのこと、ちょうど送ったけど、彼女には届かなかったと思います。発病は3年前くらい、乳癌から肺、喉に転移したようです。」

ああ、もっと早く郵便りすればよかった……。後悔ばかりです。6月10日、Tさんからドクターの命の厳しい様子を手紙で伝えられて、あわてて郵便りを書いたのです。11日に。間に合わなかった。改めて、ドクター・スワード（信原孝子医師）の旅立ちにお悔やみと感謝と永別のあいさつを送ります。そんなに早く逝ってしまうなんて……。私が日本に帰国した時にも、また、東拘に居た時にも、何度か手紙を出そうと思ったけれど、「赤軍罪」で迷惑を掛けてきたのに、これ以上弾圧させては……と、自粛してしまいました。私が東拘に居て公判中、ドクターは弁護士を訪ね、心配しカンパを託してくれたのに、自粛を乗り越えて、思いを伝えるべきだったと、改めて悔しい思いです。

ドクターと初めて会ったのは、ペイルート71年の春。「共にパレスチナ解放の闘い、パレスチナ人民の希望に沿って尽力しよう」と語り合いました。ドクター（女医）の信原さん、モマリダ（看護師）の中野さんとペイルートで出会えた嬉しい感激を今も熱く思い返します。私は25歳、ドクターは30歳。以来、死線を共にしながら励ましあってきた真の友人でした。ドクター信原さんや中野さんこそリッジ闘争の戦士と共に、日本の海外ボランティア活動の嚆矢をなした人です。率先垂範で戦場を駆け巡って負傷者を治療し、あるいは難民キャンプで母親たちの相談に乗りながら診察し、子供たちに慕われたドクター。歌の上手なドクター。照れと本音を時々口の悪い饒舌で隠す分、



誤解されることもあったけど、自分に厳しく涙もろく、誠実な人柄のドクター。私がつと支え、彼女の立場を理解し、パレスチナ連帯をずっと続けられるようにすべきだったと思います。本当はずっとパレスチナで活動したかったのだらうと思ひ至ります。どこに居ても人民へ尽くす人でしたが、帰国してからの方がどれだけ困難で苦渋だったことでしょう。昔はよく批判もし、批判もされ、前向きに語り合えたのに。権力の妨害や獄中だからということよりも、語り合うべきだったと、自分自身に憤っています。メイ出産の時、手を握って励ましてくれたドクター。メイが会いに行くところだったのに。再開を誓いつつ、果たさなかったこと申し訳ない。ごめんね。ありがとうと、窓辺に立つと、満月が……。いつかみんなで見上げた戦場の満月のようです。“君悼み眠れぬ真夜の獄窓に立てば目を射る満月に遭う”どうぞ安らかに。

6月16日 Tさん、信原医師の葬式に出席したこと伝えてくれました。安らかに眠るような信原さんとお別れができたとのこと。6月7日に見舞いに行き話したのは良かったですね。「読みたいといっていた『革命の季節』は、天国で読んでもらうために棺に入れました」とのこと。彼岸で一杯批判聞きます。ドクターそれまでさようなら。

この哀しい時にとっても嬉しい便り。宮崎先生88歳。再々手術で転移癌を摘出して6月11日無事退院。「集团的自衛権反対!」と、意気軒昂です。先生の達観した生命力には敬服しています。生きられること、生きること、生き続けること、改めて大切にしたいと思います。“久々に太刀ふるう夏の朝”“江戸物”にのめり込みみるDVD”なんと健康な姿! 嬉しくなります。

M子さんご多忙なのに一杯資料とお便りありがとうございます! 「6・1ストップ安倍シンポジウム」の様子も写真つきでデモもよくわかります。「安倍政権のやっていることは、ヒットラーがやったことも越える暴挙です」と、全有権者の三分の一にも満たないし、公明党頼りの小選挙区議員は40人以上、集团的自衛権行使容認も選挙公約になく、多数は何をやってもいいと、憲法も踏みにじるとは……と憤りの文。同感連帯! しかも日々新しい悪政を次々と出していますね。庶民には増税、大企業には減税、今日の新聞では安倍の「武器輸出五原則緩和」で、早速パリで16日から始まった武器見本市「ユーロサトリ」に、日本が初めてブースを設け、防衛産業武器商人13社が参加の記事。抗議することがあまりに多い日本です。フォーリンアフ

エアーズ「変化する中東経済地図」学習にいいです。ありがとうございます!

6月18日 ひんやりと涼しい。午後は茶道に参加。途中ちょうど診察でご挨拶しつつ抜けました。

主治医から6月10日の血液検査の結果を教えられました。CEAは5.6から4.8に下がりました。これからは波があるか様子を見ましようとのこと。また、歯科指名医から「歯周病対策のジェル、歯ブラシなどは審査中と言われている」と、連絡が私を受けたことなど伝えました。腫瘍マーカーが下がったのはほっとしつつ、正常値になればここでの検査が受けられなくなるな……と、一方で不安になったり、贅沢な悩み?!

6月19日 「集团的自衛権」の与党協議大詰めで、17日には全国各地様々な形で「9条改悪阻止・9条こわすな」「戦争反対」が表明されたことと昨日の記事。みな切実に意思を伝えています。このごろは「反動の与党一派」といわれてきた公明党にふんばりを期待するしかないようなメディア報道。人々の切実な各地の行動が、結局作用するのを忘れないようにしたい。きつと友人たちも首相官邸や日比谷野音に駆けつけたり、各地で闘っているはず。連帯!

でも公明党には幻想をもたないです。昔のこと、高校の友人が同じ大学に入学してはばったり。彼は創価学会で公明党支持。学生ソシキ「新学同」で活動するという。「安保反対護憲」で大学一年か二年の私も意気投合。信濃町の会館で座談会もやったことあったけど、いつのまにか「安保賛成」に変質。自分たちの創価学会の現実的利益にくらべて「政治方針は軽い」のが公明党。「池田国会喚問」とか「政教一致」「政権離脱」のゆさぶりで「平和の党」も自民の一派閥のようです。「小選挙区の勝敗の鍵を握っているのは我々だぞ!」と、何故平和攻勢できないのか?と、望みたいけど、望む方がムリかも。

Tさん65歳になった「前期高齢者」の多忙な日常、実況中継風に! ありがとうございます。若い人に誘われ慕われ余裕の仕事、食事会、カラオケ、ひとえ一重にTさんの人柄と「現思研」や組合できたえたオルグ能力の賜物です。人間ドッグもOKだし、夜のウォーキング欠かさず、一方安倍内閣に反対する県民集会、鹿児島川内原発反対6・13集会にかけつけ、6・27反原発ウォーク100回記念を計画し、なかなかしたたかな健康ジイサンです。6・15の昔の集会を思いつつお便り読んでます。ありがとうございます。

6月20日 I子さん、花のきれいな便箋のお便りありがとうございます。信原さんへの見舞いの約束の11日、向かっている電車の中で彼女の親族から電話が入り、亡くなられたと知らされたとのこと。「御本人も5月に一緒にネタニヤフ訪日講義で京都に泊まった時『今年いっぱいだと思っているのよ』とおっしゃっていたし、まだ話を聞く時間があるだろうと思っていました。」と残念な思いと共に、信原さんと語り合ったことも記してくれました。

お通夜と葬式に配られたという「世界」1991年2月号のコピー、今読んだところ。「人間ドキュメント・パレスチナに生きた十七年——医師信原孝子さんが見たもの——」土井敏邦氏の文です。「『将来誰かがパレスチナと日本の関係について歴史を書き記す時、その著者はドクター・サアード(幸福の意味)信原医師の記述のためにたくさんの時間を費やすことになるだろう。信原さんこそパレスチナと共にあった最初の日本の大使なのだと言わせていただきたい』と1987年11月26日帰国報告会の席でPLO駐日代表がその功績に対する感謝の意を、そう表現した」と筆者は伝えています。そしてパレスチナの解放のために、また困難な状態にあるパレスチナ民衆のために献身した信原さんの姿を伝えています。

しかし日本政府は信原さんの17年の活動の意義に目を向けようとせず、「日本赤軍との関係」を疑い旅券の再発給を拒否してきたと批判しています。そのため、彼女は83年ダマスカスの難民キャンプで働きながら「旅券発給拒否取り消し」を求めて公判で闘い87年に帰国し、89年12月の第一審勝利まで6年半被告外務省と戦いつづけたのです。外務省は私との関係やPFLPとの関係を理由に「旅券発給拒否」を主張しました。旅券法13条1項5号自体が憲法22条に2項に違反しているものですが、公判にも主張されています。外務省は「証拠」に日本人監督の撮った私と信原さんの写っている写真を提出したとか。知りませんでした。そのころの私は日本大使館に行き館員と一緒に交流して日本の新聞を読んだりしていたのに! 外務省もグルでしたよ! 信原さんともっとも近くしていた時代は、ボランティアで活動すれば、いわば当然の出会いであるのです。日本赤軍を逮捕できない恨みを信原さんに負わしめたようないいばかり。当然の89年第一審の勝利です。しかし「地裁」から上級審にいくと公安検察の意向で勝ち目はありません。どれだけ信原さん苦闘したでしょう。

87年信原さん帰国後、11月22日日本で丸岡さんが逮捕され、アラブの方では私たちもパレスチナ勢



力内の武力対立からどう統一のためのPNC(パレスチナの国会)を開くべきか、ペイルートやシリアに來られないPLOやファタハのアラファト派と北アフリカや東欧で会議したり多忙のころです。当時の国内事情にも疎いままでした。初めてこの土井さんの記事読みました。日本でパレスチナの意義が伝わりにくい条件の中で、ずっと奮闘していた彼女の姿が浮かびます。I子さん私ももっとドクターと語り合うべきでしたね。Iさんの一句“卯の花に降る雨白く友逝かん”I子さんありがとう!

夕方Uさんからのお便りで、赤軍派時代の旧友が癌と知って驚いています。義理人情の厚い感激屋のやさしい理論家。赤軍派時代中継センター役の私は、助け合ったり活動も時々一緒。「癌性胸膜炎」とは……。血液中にがん細胞が巡っているらしい「進行性」のようですが、私も「進行性」といわれつつ抗がん剤を使いました。効かないのも効くのも本人の状態条件によるので、抗がん剤、放射線、免疫療法など効かない結果は覚悟した上で、すべての可能性にチャレンジしてほしいです。再開していっぱい話したい! 私もなんとかジタバタとがんばるので、元気でいて! と大切な旧友に伝えてください。

CHさん何と身軽に「集团的自衛権行使容認反対官邸前緊急集会」へと夜行バスで開議決定阻止! と結集し、同日戻ったとのこと。この日300人も集っていたとのこと。官邸前は全国から300人が結集し朝8時から集会、場所を衆院第二会館前に移して正午まで座り込み。公明党へのヒューマンチェーンなどもあったそうです。その後経産省前テントへ。東京一の新名所へ。経産省前の景色を変える1000日を超えるテント村を訪ね先週川内原発再稼働阻止に130人も現地入りしたとのこと。闘うたびに力をお互いのエネルギーとして忠紀さんと友人たちは更に力を育てあっています。「緊急集会午前八時より首相官邸前の人々」。宮崎先生手術後のお題は「病み上がり」。“思い立ち梅

雨の合間にペンキ塗り”病み上がり根気続かず一休み” “集団的「自衛」 というのも他衛なり” 同感です。 「オリーブの樹」へ一筆文を書いて頂きたいです！ 大歓迎！お元気で！

6月23日 先週から入浴は夏曆となり月水金の3回。汗はむ週明けの入浴はうれしいです。T子さんお便りありがとう「日本の近代史を見直そう！福沢論吉神話の解体を通して」(安川寿之輔名古屋大教授)の講演の文。「福沢は日本を侵略戦争に引き込んだ張本人と知って、一人でも多くの人にこの安川先生の講演を知らせねばと思てテープ起こしました。」とT子さん。多忙な上に体調を崩しておられたのですね。その合間を縫っての作業ありがとう！Tさんの住む沿線は紫陽花がまっさかりとのこと。クラクラする程の紫陽花に囲まれてみたい！です。みんなによろしくね！

6月24日 昨日届いた「サイゾー」のトークオンデマンド(今月のゲスト周防正行さん「それでも僕はやってない」冤罪をあつかった映画の監督であり2011年から村木厚子さんと「法制審議会新時代の刑事司法制度特別部会」委員・神保哲生・宮台真司氏とのトーク)はいい内容です。自民党政権だったら周防監督は選ばれなかったでしょう。彼の挙げて刑事司法の論点は「取調べの可視化」「証拠全面開示」「人質司法」で、総勢40人の中で「全面可視化」は少数であり「証拠開示」では「事前一括全面証拠開示」を彼は要求しています。「事前に被告にすべて開示したらすべての証拠に矛盾しない言い訳を考えるからダメ」という反対意見に驚き「すべての証拠に矛盾しない言い訳ができたなら、それを『無罪』と言うのではないのでしょうか。これは『被告人は嘘をつく(有罪確定)』と宣言しているようなものです。」と審議の実情を語っていて興味深いです。

6月25日 昨日は大雨の午後は電が降ったところもあった異常気象。今日も積乱雲の注意報がでてます。この紫陽花の季節、大学の先輩で市議として反戦平和に尽くした伊波尚義さんを思い出します。彼が居たらテント村で中心になって闘っているはず、今日は彼の命日です。合掌。

6月27日 もうこちらも、週が明けた7月1日からの「夏期処遇」の回覧が回りました。冬物パジャマを引き上げたり、7月からは入浴や運動の後、プラスチック桶二杯の水で拭身することが許可され、うちわ、

冷茶、殺虫剤(一日一回スプレー可)使用も可になります。あまり暑いという感覚なしに夏になりそうです。 処遇課より「不許可の人から通信が一通あり、出所時交付」とのこと。誰だろう。新たな不許可ではありませんように。誰からかは伝えられない告知です。

6月30日 中東では、かつて植民地支配で引いてきた「サイクスピコ協定」の国境線が機能しなくなっている如き流動が、広がっています。もともと、英・仏・露でオスマン帝国をどう分割して分捕るかを秘密に決めたもので、ロシア革命によって金庫の中からボルシェビキが見つけて、レーニンが暴露したと言われた国境、西欧の都合で引かれた線でした。それが、イラクへの米侵略によって90年代から地殻変動が始まり、シリア内戦で各地に広がり続けています。権威主義的な政権を打倒すれば、「サイクスピコ協定」以前の地域の紐帯の強さが顔を出していくのは必然とも言えます。

今二つの顕著な例の一つは、「イラク・シリア・イスラム国」(ISIS)によるスンニ派主義によるカリフ制にもとづいたイスラム運動が昨日「イスラム国」の樹立宣言をしたとのこと。シリア北部のアレッポからバグダッド60キロメートル北東のディアラまでの領域とのこと。

もう一つはイラク・クルド自治地域の「クルド独立」に向かう動きです。クルドは、バース党政権下抑圧されていたのですが、湾岸戦争、ブッシュ父の時代を経て、クルド地域を「飛行禁止区域」として、米欧が石油利権を目指して保護してきたのです。「サダム追放」後は、イラクは米政権のバックアップで新憲法が「連邦制」となり、クルドは大きな自治地域を得ました。石油を西欧に独自に売ることめぐる、中央政府と対立してきたのですが、トルコ政府が介入し、パイプラインを自治区から直接トルコの地中海沿岸に引くことを許したので、クルドの独立の方向がさらに物質的にも一歩進んできました。米欧はイランと結ぶシーア派マリキ政権やISISに対し、クルド地域を安全な拠点として確立するために、2011年以降米欧の企業が集中していました。「イラクがうまく治まらなかったら、クルド地域を独立させる構想」を練っていた2003年、ブッシュ息子のネオコンブレインの思惑と重なります。

イスラエル、ネタニヤフ首相は、イラク政府とISISの戦争で、クルドが困難に乗じて支配地域拡大を行っているとの情報に「クルド人の独立への望みを支持すべきだ」とクルド国家樹立を言い出しています。クルド人は、トルコ、イラク、シリアにまたがる地域

に2000万人居て、「サイクスピコの犠牲者たち」と言われ、私たちの友人たちも「クルド独立」をめざしていました。友人たちの「クルド人民共和国」ではなく、米欧のイスラエルと結ぶクルド資本主義支配層の利益が人々の独立の望みを乗っ取ってしまっています。この混乱の中から、人民自身の権力を打ち立てるのは、容易ではないです……。

宮崎先生「黍飯を炊きて偲べり戦時中」「僥まず行け老いの歩みの遅くとも」「大正も遠く遙けし早卒寿」の句、まだまだ米寿越えただけです。健康で来年の卒寿を！ちょうどドナルド・キーン自伝「読んだところ」です。先生はまだ若いですよ！健康でいてください。

7月1日 今日から夏曆。ペランダ運動の後、3分の拭身！気持ちいいです。午後はコーラス。「七夕」「夏は来ぬ」「花は咲く」など。参加者が少なかつたため、みな2度独唱して歌いました。獄の「楽しい」1時間です。

Yさんから、「土曜会報告」受け取りました。ありがとうございます。22人参加し、ゲスト・スピーチは土屋源太郎さん、明大の先輩で、砂川闘争を闘った当時の都学連委員長、有名な「伊達判決」で砂川基地の「憲法違反無罪」を受けた被告。その後、米日支配層によって日米安保が危ない！と、高裁を飛び越えて最高裁上告。一審判決を「破棄差戻した」のは司法の独立を崩したことで有名です。この頃、また「集団的自衛権」の論拠にその判決文を自民党が持ち出していますが、土屋さんたちこそ逆に6月17日に「再審請求」を東京地裁に起こしました。土屋さんのスピーチは非常にわかりやすく、当時の時代と砂川闘争から裁判・再審請求まで明らかにしています。

その他、「土曜会」では「福島支援」「7月沖縄支援ツアー」「ヘイトスピーチ反対闘争」「TPPに反対する活動」それに「革命の子どもたち」の映画紹介まで行われています。土屋さんはスピーチの前半で当時いくつもの基地闘争があったこと、サンフランシスコ条約が52年に発効する時に沖縄の返還がなされなかったのは、天皇制のためにマッカーサーと天皇は沖縄を切り捨てたと話しています。そして沖縄にどんどん基地を移し、本当の意味で沖縄基地反対闘争をしてこなかった。「この事実は思いと違うんです。沖縄の人たちが抱える本土との差別の問題は、ここに根っこがあると思っています」と、述べています。

土曜会でこれからも再審訴訟にも積極的に関わってほしいです！連帯！Yさん、すごい量の入力ありがとう！加えて、6月8日の「STOP再

稼動！テント1000日！6・8集会」の報告までしてくれました。とってもよく、動きが分かりりたいです。また、土屋さんら50年代と60年代、70年代の明大自治会OBが一同に会する計画も！いいね。賛成です。

Kさん、すごい鮮やかな色彩のドライフラワーの写真「庭の花々をケース一杯に飾りました。主人が大好きだったシャクナゲを真ん中に、白の山吹、野バラ、山法師、かたばみ、たつなみ草、黒ゆり、他。ひどい世の中ですね。元気でいてください」とあります。

今、ここまで書いたら、ラジオで「集団的自衛権」の「閣議決定が行われた」とのこと。これで終わりではなく、次の闘いの始まりですよ。

シャクヤクは自然のまま、ドライフラワーとは思えません。白山吹も、山法師も切花のよう、または、山に咲いたまま。展示会終わって少しリラックスしてください。

宮崎先生「眠れぬ夜」のお題の「夏の夜をい寝がてにをり虫すだく」「静かなる更け行く夜もいねがてに」とあり、「いねがて」がわからず、広辞苑を引いて、「寝られず」の意を学習し、句を味わっています。私もここでは午後9時から午前7時半まで就寝時間のため、眠りすぎて眠れぬ時があります。先生は本を開いたり、できて羨ましい。こちらはベッドでじっと夢を楽しんでいただけです。健康のご様子嬉しいです。

7月2日 からりと快晴となりました。午後は主治医診察でコレステロールや中性脂肪の数値が高かったので、再検査や投薬のこと。GVボートのフラッシュを行いました。

123号の誤植の訂正とお詫び	
7頁左列2、5、16行	解放→解散
8頁左列下から18行	歌は トル
9頁左列13行	梅→桜
12頁右列22行	射手→射干 三信→三倍
13頁左列下から15行	「国家」を→「国家」と
14頁右列下から13行	若者→著者
15頁左列下から16行	1079→1979
15頁右列13行	…を絶った。水戸さん… →を絶った水戸さん…
15頁右列10行	機構→寄稿
16頁左列17行	地価→地下
同頁列下から13行	…軍法廷に出一人裁かれ… →…軍事法廷で一人裁かれ…
同頁右列7行	…(民青系9… → …(民青系)…
同頁列下から18～19行	それは…です。トル



# 革命の子どもたち Children Of The Revolution

日本赤軍の重信房子とドイツ赤軍のウルリケ・マインホフ。その二人の娘、共にジャーナリストである重信メイとベティーナ・ロール。世界を変えようとした二人の母の1960年代末からの時代と生の軌跡。二人は母とどう過ごし、母をどう思い、今世界にどう立ち向かうのか。1960年代後半に日本で強まった抗議の精神について、またそのエネルギーがどこに消えてしまったのかを、日本の若い世代が考える助けになればと望んでいます。

—監督：シェーン・オサリバン

\* 以下は、7月5日テアトル新宿での初回上映後のトークイベント  
(文字起こし写真：Y・K氏)

司会：配給会社「太秦」小林氏 この映画を知ってから公開するまでに3年くらいかかりまして、この作品は、この映画館をホームグラウンドにしていた若松孝二さんが「やれ」ということで、ずっとやっていたんですが、その間に勝手にお亡くなりになりまして、その後、テンションも落ちたりしたんですけども、ようやく皆さんのご協力のもと、ここに初日を迎えることが出来ました。本当に感謝申し上げます。(拍手)

ご紹介したいと思います。本作品の出演者でもありジャーナリスト、プロデューサーでもある重信メイさん、どうぞ！(拍手) (パンタさんの歌と(登壇)そしてもうお一方ご紹介したいと思います。映画監督の足立正生さんどうぞ。(拍手)

まず、初日を迎えた感想をお一人ずつお願いできますか？

重信メイ 皆さん、こんなに大勢来られるとは思わなかったの、立ち見だと教えてもらってびっくりしました。本当により多くの人に、ちょっとでも違うアングル、違う角度でこの話を見ていただきたいと思っていたので、本当に有難うございます。



足立正生 元々私も映画を作っているの、非常に真面目で穏やかな記録的な表現を出して面白いかなとは思っています。映像の中で語っていることなんかよりも、更につらい目に合わせたメイちゃんがここまで大人になっているんですから、私は何も発言しなくてもいいのではないかと。以上です。(拍手)

司会 実はこの映画館は日本映画専門映画館として、ここに至るまでにアイデンティティの問題がありまして、アイルランドの監督だから日本映画じゃないんじゃないかというので、メイさんは日本人だから50%くらい出ている、足立さんが5%くらい出ているからこれは日本映画だということで押し切りまして、最後は若松さんのホームグラウンドということで、ようやくここに至ったということです。僕は若松さんのホームグラウンドで足立さんをお迎えするのは非常に感慨深いものがあるんですけども、あまり関係ないですか？

足立 あんまりない。(笑) 若松が最後の頃、ここでのいろんなレトロスペクティブみたいなこともやりたいと、それに近いことをやったりしてはいたけれども、むしろこの映画館がもう少し頑張ってくれれば、若松さん、あるいは私ら、そこからも若い監督がいっぱい出て行けるので、もっともっと若い人に門戸を開くような映画館になって欲しいとずっと思っていました。だから、今日、この映画を上映できて、見に来ていただいた人たちに、そういう映画館として育ててくれることをお願いしたいと思います。よろしく。(拍手)

司会 この映画の内容についてお話をさせてもらいたいですけれども、メイさんと今までに何度か会って、

いつもにこやかなメイさんなんですけれども、このドキュメンタリーを見て改めて思うことは、子どもの時から生命の危険を肌で感じながら生活していられたんだと、僕らの想像力の及ばないところがあって、それは具体的はどういう風に感じていたんですか？

メイ 正直言って、生まれた時からそういう状況だったから、突然大人になって変わった訳ではないので、ストレスというようなものではないけれども、周りの人とはちょっと違うなというのはいろいろ感じましたし、大人と離れる度に、その大人とは二度と会えないかもしれないという思いを持ちながら、私の母も含めて「さようなら」と言うのが辛かったけれども、そういう風に生きないと逆に生きていけないというのがあったので、しょうがないなという感じでした。

司会 それで、メイさんの本を読んだりすると、一人のお父さんではなくて、何人のお父さんがいた。足立さんもその一人であったというような、どういう風な関係でお話をしていたり、まさか叔父さんと言っても嘘っぽいでしょうし、どういう風に接していたんですか？足立さんとメイさんは？

メイ 本当に家族のような感じで、例えばある人は叔父さんみたいな感じだったりするし、ある人はお父さんみたいな感じだったりするし、ある人は叔母さんみたいな感じだったり、ある人は母みたいだし、本当に大きい家族があるような感じでした。

足立 少し暴露すると、いろんな仲間が力を出し合っていて、メイちゃんたちを育てるようにはしているんですけども、メイちゃんの側から見れば、いいお父ちゃん、悪いお父ちゃん、俺なんか何も付かない単なるチャン、というような、彼女の目から見れば、(彼女が)持っているものがあって、そこから呼び名を付けているんですね。その呼び名を付ける付け方が非常に感性鋭くて、何でいいお父ちゃんなのか、何で悪いお父ちゃんなのか、俺みたいに何でチャンだけなのかとか、そういうことがあって、今言ったようなストレスなんて、彼女自身はそればかりだから、実は感じていなかったんじゃないかと思えますね。

司会 いつも死が隣り合わせという中で、向こうの世界で明らかに日本人と異質だったんじゃないかと思うんですよ。その中で足立さん自身も危険を感じていたでしょうし、その中でどのように普通の生活を送って

いたのかということを知りたいんですけども。

メイ 家の中では普通に家事をするお当番とか、料理を作るお当番とか、いろいろとその日によって子どもの宿題を手伝うお当番とかあったんですけど、その代わりに、私たち子どもたちが学校に行ったり寝ている時は、他の政治的な仕事をするような感じだった。

本当に若い頃は集団的に生活をしていただけで、それだと目立ちすぎるので、アジア人らしい人たちがグループで住んでいるとおかしいから、そのうちどんどん分かれて住むようになっていったけれど、周りの人に一生懸命日本人じゃないと説得するのが大変でしたね。違う国籍の人だと言ったりとか、何でこんなに大勢の人が一つの家のの中に住んでいるのかということも、目立たないようにストーリーを作らないといけないし、外と向き合った時に工夫をしなければいけないところがありましたけれど、でも家の中では普通の生活の中でも私たちは特別な生き方を持っているから、それはそれなりにちゃんと向き合わないといけないから、毎日、身のまわりに危険があるかないか皆で確認するために、夕食の後に報告をするとか、普通の家族だとたぶんだらうなというのがあるけれども、それ以外ところでは本当に家族みたいにいるとやっていた。だから両方あった。普通に家族っぽく生活しているところもあったし、それなりに私たちが危険の中で生きているということもあったから、子どもも入れた報告会みたいなものもありました。

司会 若松さんにこの映画をやれと言われた時に何から考えたんですね。やっぱり重信房子さん、赤軍、リッジ、いろんなことが3分の1とか4分の1とか1面以下みたいな形で、このまま定着すると、本当にそれだけしか残らないんじゃないかという気があって、何が本当かはさておいて、本当のことを探る転機になればいいかなと思って、それでやれたみたいな気がするんですけども、足立さんはその辺はいかがですか。

足立 若松はいろんな思いがあって、そう言ったんだろうというのは分かります。もう一つ暴露すると、メイちゃんが生まれた後、国籍をどうするかという問題があった時に、彼が毎年のように来ていたんですけども、メイちゃんにも会った時があったんです。その賢さや何かを見た後、よし決めた、彼女は俺の娘にする、つまり養女にする。アラブの女性に産ませた子どもだから連れて帰る、そういうようなメイちゃんの置かれている境遇なんかには同情して28年一緒に過ごし

## オリーブの樹 第124号

たというのがあるから、メインホフの子あるいは房子さんの子のメイちゃんということで、万感の思いがこもっていただろうというのはありますね。もちろん柄は悪いけど自分の娘はちゃんと育てているから、それもいいかなと思ったりしましたけれど、結局それは実現しなかった。そんなところですよ。

メイ 確かに若松さんは、私なんか若ちゃんと呼んでいたんですけども、結構、お父さんの一人のような方だったので、そういうところもあったんじゃないかな。そういう思いもあって、28年間中東で生まれ育つというのはどういうことを日本の方々に伝えるいい機会だと思ったんじゃないかなと思います。

司会 僕は「Children Of The Revolution」といのが原題なんですけど、それに邦題として「革命の子どもたち」というのを付けて、ベティーナ・ロールさん、すごく対照的は母親像を抱いているなと思ったんですけど、メイさんはベティーナさんの母親に対する印象というのは、

メイ 私はベティーナさんも、ベティーナさんのお母さんのことも映画を通してしか知らないんですけども、キャラとしては私の母とはちょっと違うんじゃないかと思えるところがあります。もっと気が強い、私の母も強い人でしたけれども、何ていったらいいのかな……、ヨーロッパ的、西洋的な強い女性というのがありますよね。私は日本的な強い女性と違ったキャラクターだと思うんですけど。

足立さんはひょっとして2人とも知っているから、足立さん知ってますよね？

足立 誰を？

メイ マインホフさん。

足立 そういうのはあまりここでは……。笑

メイ 私はその人を知らないから、それと私が生まれて直ぐくらいの時に死んでいますので分からないですけども、一つこの映画を観て思ったことは、何で私とベティーナさんの意見がこんなにも違うんだろう、と不思議だったですね。もちろん生きていて環境が結局は違った。母親のイデオロギーが似ているかもしれないけれども、違う生活をしてきた。

彼女は中東に向かうはずだったけれども、結局は行

かなかった。それと母親を批判するお父さんと一緒に育った。それだけではなくて、非合法ではなくて合法的に育ったし、そういうものもあったけれど、私はそれだけが違いではないと思ったんですね。本当に考えて思ったのは、2人とも母と普通の生活ができた訳ではないけれど、私と彼女が違うところは、一緒にいる時間が少なかったとしても、私の場合はずっと母親に会うこともできたし、いろいろ疑問に思ったこととか、聞きたいこととか、何でと思った時には聞く機会だってありましたし、そして答えもきちんと戻ってくることもありましたし、そして母の愛情もそうですし、周りの他の家族の人たちの愛情も本当にいっぱいもらって育った。その中で私はこの映画のように思えるようになったと思うんです。ベティーナさんは、母親の愛情を十分に受ける前に、しかもいろんな疑問に対しての答えを貰う前に母を亡くしてしまいました。そのギャップが、疑問とか不満とかの感情に変わってきたんじゃないかと思ったのと、それでもう一つ思ったのは、親子の愛情というのは当たり前のことじゃないんだなと思った。今までは親子というのは、当たり前のように愛情があるはずだし、更に大変な中で生きて行くと、絆というのが当たり前のように強くなるものだと思っていたんだけど、そうじゃなくて本当に努力があったからこそ、愛情というものが生まれるんだなと思った。

当たり前前に生まれつき出てくるものじゃなくて、例えば私の場合は母親の愛情とか周りの人の愛情が、みんな大変な中でも努力して、この子はうまく育つようにと、子どものことを第一に考えていることが本当に伝わっていたんですね。何を決めるにしても、例えば移動を決めるにしてもまず学校をどうするかとか、本当に子どものことを一番最初に考えているというのは感じてくるんですね。それもやっぱり努力があって愛情が伝わってきたから、子どもも愛情を感じることができたと思うので、私も学んだことの一つなんですけど、愛情というのは当たり前のように伝わるものではないから、自分も人にちゃんとコミュニケーションする努力をしないといけないと思いました。

司会 当然、足立さんもすごい愛情を注いでいたと思うんですけども。

足立 今、彼女が言ったこととあまり違わない問題ではあるんだけど、メイちゃんと僕らが一緒に住んでいたということもあるんだけど、それはほんの20分の1くらいであって、他の軍事基地に居たりい

## オリーブの樹 第124号

ろんな仕事をして、彼女と一緒に居られる時間というのは非常にいい時間なんですね。ですから、そういう意味のラッキーな出会いの部分だったというのが一つと、僕なんか既に娘が3人いた後に姿を消して合流しているんですが、他の人たちは皆学生運動上がりの若い人々で、出産とか子育てとか全く分からない人たちですよ。ですから、そういう仲間と一緒にメイちゃんを育てる、あるいは他の子たちも産まれたりして、それを育てるといのは一つの基本的な、いくら革命家、テロリスト、過激派と言われても、基本的な生き方の中で問われる問題を、メイちゃんを通して出会うということをやっていた訳です。

ですから、メイちゃんにとっては、それが非常にかけがえのない愛情と見えたんだろう、あるいはメインホフの娘はメインホフを敬愛する、あるいは以前からの仲間たちがしっかりと支えて育てたということも知っています。それからメインホフさん自身は、強さというよりも、実際に社会の問題そのものを受け止める、そこで実行するというタイプだと、学生の頃から知っている2人の若い女性が言っていましたけれども、激しさというのはあたかも脳腫瘍を取って鉄板を入れて人間が変わったんだという、たとえそういう要素があるにしても、鉄板を入れて変わってそれから始まって、脳がおかしいものを持ってないのは分かるんだけど、心理的な変化があったんじゃないかと、どうでもいい分析をこの映画の中でもしていますけれども、そういう具合に思おうと思ったら思えるんですね。だからメイちゃんの母親の房子さんでも、決断したから中東に行ったし、決断したからリッジ闘争の死んだ人たちのものも引き受けようとしたし、というように、強さとかいうものは、メイちゃん風に西洋的、東洋的という言い方もあるかもしれないけれども、むしろ、自分が背負っていたものをそれなりに強くやろうとしたんだなと思います。

それからメインホフの方は、そういう意味で言えば母親の愛情というものは分からなかったということも映画の最後に言っていますよね。つまり、もちろん政治上の路線上の問題は、西ドイツと日本の私たちの違いとかいろいろありますけれども、本当は分かっていたんだ、子どもを産んで分かった、それが全ての回答になっているんですよ。

だから、僕も娘を見て、娘たち立派に育っていて、親はいないけど子は育つというのは世界の真実だと分かったんです。でも、親がいても育つ子もいる訳でしょ。その例がここにあると僕は思っているんです。

メインホフのこと、メイちゃんとほとんど変わりが



ないと、あるいは変わりが無いんだけど、そういうお前らがかつてやった過激派の闘いじゃなくて、私たちの世代は私たち世代の生き方の中で身につけた闘い方をしますよ、と両方言っている訳だけど、古い方の世代から見れば、愛情というのはメイちゃんが言っているように、ワシらはラッキーでメイちゃんと愛情の関係をしっかりと持ちながらやれたけれど、そうじゃないところの方が大半な訳ですね。その程度の違いはあるのかなど。だけど、メインホフの子が最後に、子ども産んでよかったと言ったので、私もちょっとウルウルになって、今でも目が濡れているんですね。以上。

司会 最後に質問なんですけれども、重信さんが捕まった時、ニュースで日本全国ほとんどの人がご覧になっていると思うんですが、それをまた映画の中で見た時に、すごくひどい中傷があったような記憶があるんですね。でも、メイさんは、我々と全く違う、生きていくことが分かったというようなことをおっしゃっていましたよね。だから全然違うんだなというか、僕たちの鈍感さを恥じたところがあるんですけど、その話を聞かせてもらえればと思います。

メイ もちろん逮捕されることはとても残念なことですし、ああいう形で未だに、私からすると無罪の、本当に証拠もないまま20年も独房に入れられるということはすごく不正義で残念なことだと思うんですけども、今まで人生の中で心配していた暗殺とか拷問と

いうものがなかっただけ、ホッとした。もちろん、逮捕された時の報道が、ある友人の方から電話がかかってきて、ひょっとしてあなたのお母さんが逮捕されたかもしれないという話が耳に入って、その日、わずかに映るNHKニュースをずっと見ていて、悪い映りのテレビあるじゃないですか、ああいう感じでNHKで映ったんですね。でも、私は母だとすぐ分かったんだけど、本当に難しい気持ちでしたね。

とうとう逮捕されてしまった、私がずっと恐れていたことが起こってしまったという本当の悲しい思いと、でも殺されなかったという思いの難しい複雑な感じでしたね。

**司会** それでは今日はマスコミの方が来ていらっしゃいますので、パネルを囲んで立っていただけますか。

(映画のポスターのパネルを囲んで重信メイさんと足立正生さんがマスコミ用の撮影に応じる)

**司会** 最後に一言ずつ、あと3週間ほどやりますので、その間にまた足立さん、メイさんにも登壇していただきますので、最後に一言メッセージをいただいて締めたいと思います。

**足立** 題名が「革命の子どもたち」となっているように、歳取った私たちのことではなくて、今、生きている人も死んでいる人もいろいろあると思うけれども、メイちゃんたちの世代を継いだ人たちが、どいう思いでどいう具合に生きようとしているのかどいうのをテーマにしようとした映画でもあります。そうい

意味で、今後ともメイちゃんをよろしくお願いします。  
(拍手)

**メイ** 私は映画の中でも言いましたが、メディア関係で今仕事をしているので、言いたいことは、メディアに一方的に、日本みたいに一緒にたの報道の仕方とか、意見というものが流れる中では、やっぱりどこか違うものがあるんじゃないかという風に、この話だけではなくていろんなこともそうですけれども、世界の情報も日本の情報も疑いの目を持ってみなさんにこれから見ていただきたい。このメディアが言っているんだから正しいんだろうというのではなくて、言っていないこともいっぱいありますし、言い方も違ったりしますし、いろいろあるので、本当にみんなで一緒に視野を広げるようなきっかけになる、いろいろと自分からもすることもできるようにしていただければいいなと思います。ありがとうございました。(拍手)

**司会** どうもありがとうございました。盛大な拍手をどうぞ。(盛大な拍手)

\*\*\*

上映予定

東京 テアトル新宿 7月5日(土)～

神奈川 シネマジャック&ベティ 7月5日(土)～

大阪 テアトル梅田 7月12日(土)～

京都 京都シネマ 7月12日(土)～

その他全国順次公開! 上映等問合せ先

<http://www.u-picc.com/kakumeinokodomo>

配給会社: 太秦閣 Tel: 03-5367-607

#### 後記

日本人の二人に一人が癌に罹るといわれていますが、旧知や新しく知り合った友人の間に、次々とその病が広がるのを知るのはなんとも辛く、理不尽でさえあります。ドクターラ・スワードの場合、病状がかなり悪くて、年を越えられるかどうかかわからないと聞いたのが2、3ヵ月前のことでした。5・30の集会に関西から参加した友人が集会中にスワードに電話して、私にも電話に出ると携帯を近づけてくれたので、帰国後もう14年になりますが、はじめて彼女と対話。ほんの一言二言話し、「では会いに行くからね」と再会を約束して電話を切ったのでした。年を越せないかもという状態より悪くなっているとは思っていませんでした。近々会えることを信じて多くを語りませんでした。その後、すぐには動けなかったもので、どうなったのかなど仲介してくれた友人に電話したのが6月11日の夕方、なんとその日の朝彼女が亡くなったとその時知りました。衝撃! 重信さんも書いていますが、私たちは、彼女に接触したら「赤軍罪」で痛めつけられた彼女に、更なる迷惑をかけると思い込んで、会うことを遠慮してきました。でも、友人が言うには、彼女は丸岡さんに会いにも行かず、医者でありながら何もしてあげられなかったことを繰り返し悔やんでいたとのこと。私も早く決断して会いに行けばよかったと悔やんでいます。彼女は言葉つきはきつい人でしたが、子どもたちにも慕われるやさしい努力家でした。是非とも会いたかった。心からご冥福を祈ります。ゆっくりと休んでください。Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

## 「正誤」表

### 第124号

- ① 2P(短歌)5行目 助け合い～隘路を拓き→隘路を拓き
- ② 3P(一番上タイトル) 7月10日→7月2日
- ③ 3P右1行目 人はすぐ誤まるのに～→人はすぐ謝まるのに～
- ④ 4P(5/14)左7行目 「立憲主義化からの～」  
→「立憲主義からの～」(トル)
- ⑤ 5P(5/19)右16行目 元気で再開→元気で再会
- ⑥ 5P(5/20)右8行目 ～は、なかみ詠の→は、はなかみ詠の～
- ⑦ 8P(6/3)左3行目 ハマスの近い→ハマスに近い
- ⑧ 9P(6/11)右下から2行目 上げてきた門間→上げてきた門真
- ⑨ 10P左下から15行～16行目 ～12月議会を作り  
→12月議会を説得して作り(挿入)
- ⑩ 11P左上から15行目 ～してありかいた勢力→してアルカイダ勢力
- ⑪ 11P(9/13)右下から10行目 看護士→看護師
- ⑫ 12P(6/19)右下から8行目 ひとえ一言に→(トル)一言に
- ⑬ 12P(6/16)左下から4行目 五原則→三原則
- ⑭ 13P(6/20)左上から5行目 ネタニヤフ訪日講義→ネタニヤフ訪日抗議
- ⑮ 13P右下から16行目 再開して→再会して
- ⑯ 15P(7/2)右3行目 GVポート→CVポート
- ⑰ 15P(6/30)左10行目 来年の卒寿→来年(削徐)卒寿